

クラス	TU305	担当教員	小坂 啓史
テーマ	「社会」を理解すること～生活世界と社会・連帯について考える～		
著書・論文	<近年の研究課題> ケア関係の相互行為分析と“レリヴァンス” ◆『The Dominance of Care-Management Approach for the Elderly in Japan: The Emergence of Bio-Politics under the “Long-Term Care Insurance” Act』(『現代と文化』第123号、2011年)		
研究課題等	◆「エイジズム」(藤村正之編『いのちとライフコースの社会学』弘文堂、2011年) ◆「介護保険制度下のケアマネジメントとレリヴァンス」(『現代と文化』第127号、2013年)		
ゼミナール概要			
キーワード:			
《ゼミの内容について》 （１）「社会学的想像力」を身につけ、考えましょう このゼミでは、まずは「社会学的想像力」を身につけていくことを目的とします。この「社会学的想像力」とはアメリカの社会学者ミルズがつくった言葉で、 時代や社会の変化と、私たちのふるまい、気持ち、人間関係など身近な日常生活とが、どのように結びついているのか を想像し考えていくことです。「社会学的想像力」は、現代社会に生きる私たちにとって、大変重要なものになっています。 たとえば、子育てが困難な家庭状況というものは、その家庭のみの問題として片付けることはできません。そうした状況を産み出す、社会のあり方についても考えていくことが大切であるはずで、また学生のみなさんは、ときに友人関係や家族関係などで悩むこともあると思います。こうしたことで苦しむことや、それに伴って生まれる「 生きづらさ 」の感覚などについても、社会全体での人間観や社会意識の変化、しくみの移り変わりなどと結びついているものです。例をあげれば、「勝ち組」「負け組」といった言葉で人を“区別”したり、そういう見方を勧めるかのような社会の雰囲気、価値観といったものが、個人の生活レベルでの苦しみを作り出している、とも考えられます。このような視点をもつことは、「他者」と関わって生きていかざるをえない私たち自身の、そして広く社会の方向性をも見定め考えていくことに、深く関わることでもあります。			
（２）社会学的な「社会」の見方について学び、考えましょう その上で二つ目として、社会学における「社会」の見かたについて学んでいきます。先に述べた「社会学的想像力」は、さまざまな「社会」の捉え方、考え方を身につけることによって洗練されていきます。まず初めは基礎的なことについてみていき、その上で、みなさん自身が体験してきたことや、さらにはさまざまな社会問題についても応用させて考えを深めていきましょう。			
（３）社会学的研究方法について学び、考えましょう 三つ目に、研究の方法について学んでいきます。これは4年生時の卒論への取り組みにも関わります。みなさん各々の問題関心、テーマに基づいて研究をおこなっていくには、そもそもそれにふさわしい研究方法についてきちんと理解していることが重要となります。方法にはさまざまなものがあります。これらについて、その具体的な手順なども含めて理解し、用いることができるようにしていきましょう。			
《ゼミの進めかたについて》 ゼミのすすめ方は基本的にゼミナール形式です。文献・論文等を取り上げて、報告とディスカッションをしていきます。そして、3年生（あるいは4年生）の夏休み期間に、他大学と共同でおこなう4大学合同ゼミ合宿に参加する予定です。また、実際のゼミのメンバーによりませんが、社会福祉施設等における介助・レクリエーション活動へ参加する可能性があります（これらには、きちんと参加することを念頭に置いておいてください）。			
担当教員からのメッセージ			
ゼミでは禁句があります。それは、「 わかりません 」「 おなじです 」といった意見(?)です。調べてもわからないことがあれば、問題提起をしてゼミでみんなで話し合っただけで考えていけばよいのですし(そのためのゼミですから…)、また、意見が他の人と同じでも、きちんと自分の言葉で述べることも大事です。また、その際に気をつけてほしいのですが、意見を単純化させすぎることあまりよくありません(→「しょせん～にすぎない」など)。社会のさまざまな現象や社会問題を説明するとき、こうした“一言”で表現できるほど、「社会」は単純なものではありません。また、この意味での単純化はただの「シニカルさ」にもつながり、結局何も考えていないことになってしまう恐れさえあります。それから最後に… わからないことや知らないことがあるのは、別に恥ずかしいことはありません。集中しつつもリラックスし、ゼミに臨んでください。 そのための環境づくりには、十二分に配慮していくつもりです。			